

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>その人らしく趣味や特技を生かし、役割や楽しみのある生活を支援し、意欲の向上に努め理念をつくりあげている。地域の中では理念の中に入っていない。</p>	○	理念の中に家庭的な環境と地域が入れられる様取り組んでいきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全職員が理念を共有している。ホール又更衣室にも掲示して、実践に向けてとりにくんでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で地域密着型ノグループホームの説明を行った。</p>	○	理念として掲示できる様、先ず職員が地域の中へ浸透していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的なあいさつはいつもしており、気軽に立ち寄ってもらえる様声をかけている。散歩中写真を撮ってもらえた。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に参加していない。地域の獅子舞には見学させていただいている。</p>	○	自治会、老人会に参加してみる方向で検討してみたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	楽しい時間を共有してストレス解消、体の為になる事がないか話し合っている。	○	事業所フロアを利用し介護予防体操等して貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解している。ケース会議等で改善の為に話し合いし実行できるところはしている。	○	評価を活かした改善計画を立て取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告や話し合いを行っている。充分取り組んでくれていると言われている。	○	さらに意見を聞き、サービス向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営会議のみ来ていただいている。市町村の担当者にTELし相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について学び理解している。必要な人が今のところいません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われているか注意を払い防止に努めている。今のところ虐待はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホームを見学して頂き、利用料金や入退居に関する内容等を分かりやすく説明、明示してある。理解納得が得られる様援助行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>聞いても意見としては出ない。さりげない会話の中で聞き出し反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時個々に暮らしぶり健康状態は報告している。運営推進会議で全体的な健康状態、連絡事項は報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情等を入れていただく箱を設置している。面会時や電話などで何でも話して頂ける関係づくりを心がけている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ケース会議や勤務内で聞いたりしている。意見や提案は反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状況の変化に応じた勤務調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者には離職の説明し必要最小限のダメージで抑えるよう配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各視点から問題提起をして、職員で研修に取り組んだり外部の研修にも出来るだけ参加できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や他の研修にも順次参加してもらっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ゆっくり休憩スルスペースがなくハード面での改築は難しい。	○ 休憩をする時間を確保していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が責任を持って、個々の利用者と積極的に向かい合っている。研修での報告をし、スキルアップに努める。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が不安にならない様傾聴し、なごやかな雰囲気になっている。本人の気持ちを受けとめる努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談には時間のゆとりを持ち聴かせていただいている。又一緒に考え受けとめる努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、受け入れ不可能の場合は他の施設を紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	場の雰囲気をなごやかにゆったりした時間の流れにしている。やさしい声かけを行ったり徐々に馴染んでいただける様工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に行動している。その中で学ぶ事沢山ある。常に笑いが出ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で、報告や相談をし、喜怒哀楽を共にしている。一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	訪問しやすい雰囲気作りをしている。敬老会では一緒にイベント等を楽しんでいただいている。正月は家で2名過ごされた方がいた。運営推進会議の後ゆっくり会話していただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みの家具を置いている。自宅で使用していた物を持って来てもらっている。馴染みの人が訪問しやすい雰囲気作りをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が話しやすい環境作りをしている。声掛けで接点作りをしている。洗濯物たたみ、料理作り等楽しく一緒に生活している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院を必要とし退所となった利用者には見舞いに行くとか、家族よりの電話連絡によりその後の経過を把握している。しかし退所して時間が経つにつれ連絡が少なくなっていくのは回避出来ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者同士の会話では職員とのコミュニケーションの中より感じとったり、声掛けを多くし把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族より生活歴、入所前の暮らし方を出来る限り詳しく聞いている。ただ家族によっては積極的に話したくない事もあり個人差がある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床時～就寝時まで就寝中の見守りも含めて食事量、バイタル測定、排泄量をチェックしている。ただし、介助を要しない利用者の排泄量に関してはチェックしていない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を渡す際、家族(本人同席の時もあり)に必ず説明し意見、要望を聞いている。又サービス担当者会議での意見や主治医より受診時の指導も取り入れている。家族はなかなか意見や要望を出さないのが現状としてある。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間終了時、状態変化時に本人の希望、家族の意向、関係者と相談し見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、日勤簿、夜勤簿、受診記録に日頃の様子を詳しく記録しており、申し送りでも更に確認をし共有し活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GH独自の施設であり、認知症対応型共同生活介護のみの機能である。	○	今後、法人代表者が多機能の施設を設立した場合に於いてはそれにより検討したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の音楽ボランティア、出張美容師、化粧ボランティアの来所がある。又救命講習では消防署の協力を得たり、介護相談員の来所等あり協力を得て支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	研修等で他のケアマネジャー、サービス事業者との話し合いを行っている。他のグループホームとの交流もある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の症状について地域包括支援センターに相談しアドバイスを得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望をとり入れてかかりつけ医を選定し受診時には日々の施設での様子、体調について医師に報告し、医療と連携を密にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>脳神経外科、精神科、歯科の医師を確保していると共に認知症の対応に慣れたスタッフのいる医療機関を利用している。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>スタッフの中に看護の有資格者がおり相談しながら健康管理にとり組んでいる。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中の経過について担当の看護師、ソーシャルワーカーP・Tの方等の病院関係者より情報を交換し、早期退院へ向けて備えている。医療機関や医師によっては、個人情報保護法とのことで家族のみ情報をという事もあり、不便を感じることもある。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入所時や家族面会時ケアプランの説明時に重度化した場合について希望を聞くよう努めている。家族はかかりつけ医の紹介による医療機関への入院で良いとの意向多くある。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>当事業所では重度化、終末期の利用者への対応は不可能と判断し取り組んでいない。</p>	<p>○ 当時業者では現段階で、重度化や終末期の利用者を支援する体制はなく、今後の課題である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族及び本人に係る関連機関と十分な情報交換と話し合いを行い、利用者の不安やストレスを最小限に食い止めるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重し、本人の意思を確認しながら対応している。失敗をされけなくカバーし否定的な言葉を使わないように配慮している。ケース記録記入にはイニシャルを使い個人情報の取扱いに気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃からコミュニケーションを多くとり、利用者の思いや要望が表しやすい雰囲気をつくっている。その人に合わせた話し方や説明を行い意思の疎通を確認出来るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々のペースに合わせた介助や対応を行っている。余暇やレクリエーションの際にも一人一人の希望を聞きそれにそって支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪カットは2ヶ月に1度のペースで出張美容師の来所があり、本人の望む型、長さ、を話し合ったうえでやっている。化粧ボランティアの来所は1ヶ月に1度あり、お化粧品をして頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を多く取り入れたり、昔利用者が食べたような献立をしたり工夫している。野菜の皮むき、食材を切ったり、食後の片付けの食器拭きを一緒に行ったりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の誕生日には本人の好みを聞き献立を立てている。茶、コーヒー、牛乳、野菜ジュース、アクエリアス等の、その時の状況、好みに合わせて提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄のタイミングでトイレ誘導をしパッドのチェックをしたり、その人の力に合わせた介助を行い、失禁の減少に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴で一人一人ゆっくり時間をとり対応している。入浴順、湯加減等本人の希望に合わせて楽しんで頂けるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活のパターンに応じて日中居室に戻ったり、フロアで休息したりしている。就寝時間も個人の意向を尊重し個々の対応をしている。夜間は安眠できるように、照明や騒音に気をつけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個性を大切に、その人に合った役割や、出番を作り意欲の向上に努めている。新聞、雑誌を読む、カラオケで唄う、新聞たたみ、洗濯物たたみ、フロア掃除、食器拭き、お茶いれなど		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今のところ、個人のお金は預っておらず、必要な物を購入した時は利用料の請求と一緒にしている。	○	個人での金銭管理は難しいが家族と相談の上、お金を所持し、買物外出の際、使えるように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、お花見(梅、桜、芝桜、菊、菖蒲、コスモス) 外食での外出、近隣への散歩、外気欲と戸外で過ごす機会を設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日のプレゼントは利用者が同行して選んで頂いている。お花の好きな人にはお花屋さんと一緒にいたり、パン屋さんに行き好みのパンを買って食事したり工夫している。家族はお墓参りや、冠婚葬祭に外出の機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出により電話を利用出来るように取り計っている。又年賀状は職員がセッティングし、利用者の自筆により各々家族に出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人が気軽にいつでも訪問しやすい様、雰囲気作りをし、湯茶を提供し場の設定してくつろいで頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認識は充分できている。しかし主治医の指導、家族の了解のもと、独歩で転倒の危険のある利用者に対し、期限を設定し車椅子に拘束帯を使用し固定している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	坂道と見通しの悪い道路に面し、危険である為鍵をかけざるをえない。	○	職員が常に見守りをする事で危険防止に継ぎ、出来るだけ鍵をかけないよう取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間はほとんどの利用者はフロアで過ごすことが多く居室に戻っている利用者に対しても、時々声掛けをしている。夜勤者はPM8・11・AM6・と巡回をしている。フロアでは職員が常に危険のない様見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ・裁縫道具は利用者の申し出により渡し使って頂いている。薬品、包丁等注意をする物品については保管場所、管理方法を明確に決め職員間で周知徹底している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救命講習については近隣の消防署協力のもとスタッフ全員が講習を受けており緊急時に対応出来るよう備えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応の研修(普通救命講習)全員講習済み。対応マニュアル、事務所、当直室にファイルし常に職員への周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	安全に避難出来るようマニュアルを作成職員が理解している。	○	地域の協力を得られるよう働きかけて生きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族とよく話し合い納得、安心が得られるよう支援を行っている。利用者毎に状態に合った対応方法を家族に伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェック表、ケース記録に残し常にかかりつけ医との連携を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、外用薬は職員が管理し、毎服薬確認しており、薬の目的、副作用については確認、理解して支援している。日付記名をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	チェック表にて確認し、水分補給や、腹部マッサージ、オリゴ糖で取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨き、うがい等できる人には促し困難な人には声掛け支援している。夜間は義歯を外し、週1~2回洗剤にて洗浄し預る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、10時3時のお茶の時間等に水分補給も一日全体を通じておおよそ把握している。体重測定も月1回チェックしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は毎年実行している。衛生管理として手洗いうがいを施行している。ペーパータオルを使用。食前、おやつ前には、速乾性手指消毒剤を使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁は調理後熱湯をかけ消毒し布巾、台布巾等は毎日消毒液につけ乾燥機を使用する等衛生管理に努めている。食材は週4日の配達と週1回の生協購入等で冷蔵庫内の整理を常に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇やフェンスに花のプランターを設置し明るい雰囲気づくりに取り組んでいる。手作り看板と誘いチラシを道路面より見える所に貼ってある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中ほとんど食卓のところに集まっている事が多いがコタツや玄関のソファで自由に過ごせる。壁飾りや外出時の写真を貼ったりテーブルの上には季節の花を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーおよび畳コタツを設置してあり自由に過ごせるよう居場所を確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや衣裳ケース等が持ち込まれその人らしい居室になっている。壁には好みの写真、カレンダー等を飾って安心して過ごせる居室となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除時、必ず換気を行っている。冬は加湿器により湿度調節している。各居室、フロア等の温度差にも気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを廊下、トイレ、浴室等設置してあり身体機能低下への対応がされている。毎日、体操や手遊び等がレクに組み込まれている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレ等、場所がわかりやすいよう目線にあわせて表札や時計等を設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ポランターや庭に季節に合った花を植えたり、天気の良い日には日光浴を兼ねてレクリエーションをする。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

理念 心にゆとりのあるその人らしい生活を送れることを第一に考えます。趣味や特技を生かし役割や楽しみのある生活を支援し意欲の向上に努めます。

方針 要介護状態であって認知状態にある者について、共同生活住宅において家庭的な環境の下で入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活の世話及び機能訓練をおこなうことにより、利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことが出来るようにすることとする。 毎日レクリエーションの時間を設けて色々な体操や運動をする事によって残存機能の低下防止に努めスタッフ共々笑顔の多いGHづくりを実践している。